

『日本理学療法教育学会から』

2020年6月15日

【近年のトピックス】

日高 正巳（日本理学療法教育学会副代表運営幹事）

理学療法教育におけるトピックスとしては、「新指定規則の施行」（外部リンク、日本理学療法士協会：http://www.japanpt.or.jp/info/20181009_02.html）と「新型コロナウイルス感染拡大下での教育対応」の2点です。

1つ目の指定規則改正については、今後、5年毎に見直しされるとされたことから、日本理学療法教育学会としても、次の改定を見据えた取り組みをスタートさせています。

2つ目の新型コロナウイルス感染については、ほとんどの養成施設において、臨床実習の実施が困難となり、学内実習での代替対応が求められました。そこで、5月17日に養成施設の教員だけでなく、多くの臨床実習指導者の参加を得て、緊急シンポジウムを開催させて頂きました。臨床実習ができない現状を踏まえて、改め、臨床の場でしか修得しえないものは何かを考える機会となりました。

また、今回の感染拡大を通して、学内教育においても、感染防止教育等、新たな教育テーマも浮き彫りとなり、効果的な教育はどうあるべきかを考える時が到来しています。



「COVID-19 理学療法緊急シンポジウム 令和2年5月17日」

【若手理学療法士への期待】

本田知久（日本理学療法教育学会運営幹事）

2010年に理学療法教育ガイドラインの1版が提示され、理学療法卒前教育の達成目標を「理学療法の基本的な知識と技能を修得するとともに自ら学ぶ力を育てる」こととしています。

臨床の先輩として自ら学ぶ力を育てるためには「日々の経験から学び、考え、試行錯誤を続ける」ことが大切です。

Lombardo & Eichinger (2010)¹⁾によると成人における学びの70%は自分の仕事経験から、20%は他者の観察やアドバイスから、10%は本を読んだり研修を受けたりすることから得ていることがわかりました。

では仕事経験からどのように学ぶのでしょうか？ Kolb (1984)²⁾によると以下のようになります。

①「具体的経験」⇒ ②「省察」⇒ ③「概念化」⇒ ④「試行」

これは、① 理学療法の様々な仕事や対象者個々のアプローチなどの経験をした後、② その内容の成功点、失敗点を振り返り、③ そこから他の状況でも応用できるような自分にとっての教訓を考え、④ その教訓を新しい状況下で実際に試してみるという事になります。

実際の臨床場面で考えられる例を提示します。

〈例〉

- | | |
|---------|--|
| ① 具体的経験 | 今日、患者さんに嫌な顔をされました |
| | ↓ |
| ② 省 察 | なぜ嫌な顔をされたのかを振り返り |
| | ↓ |
| ③ 概念化 | 「自分のペースで理学療法を押し付けてはいけない」という教訓を引き出し |
| | ↓ |
| ④ 試 行 | 次の日は「患者さんの痛みやペースに合わせて介入したところ、笑顔でリハビリに取り組んでくれました」 |

就職した職場によって教育環境は違うと思いますが、若手の皆さんには理学療法の様々な仕事にチャレンジして多くの経験をしていただく事を臨床の先輩として期待しています。その中で振り返り、次やるべきことを考えながら過ごすことで、経験から学び続け、相手から信頼される理学療法士になって行くはずですよ。

《参考文献》

- 1) Lombardo, M.M. & Eichinger, R.W. (2010). *The career architect: Development planner*, 5th edition. Lominger International.
- 2) Kolb, D.A. (1984) *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*.